

鶴見総持寺の米山梅吉翁の墓参

米山月間の10月2日に米山家のお墓があるという鶴見総持寺へ、墓参に行きました。この企画は毎年米山奨学金の寄付をしているのに米山梅吉翁についてあまり知られていない、遺骨についてもお墓は総持寺にあるが、遺骨は総持寺にはなく三島の記念館の方にある、いや両方に分骨されている、はたまた記念館には遺骨はないと言うように三者三様でどれが本当なのか疑問に思い墓参に行けば真相が分かるのではと計画させていただきました。そのあたりの真相を山口洋一郎米山リーダーに調べて頂きましたところ、遺骨は総持寺と米山翁の母方の故郷で米山記念館のある静岡県三島市長泉の記念館近くの墓地に分骨されているそうです。

米山翁は1964年2月4日に和田家の三男として生まれ1887年に米山家に養子として入籍。その後渡米し帰国後の1920年10月に日本初の東京ロータリークラブを創立し初代会長に就任しました。



1952年に東京ロータリークラブは彼の功績を記念して、日本で学ぶ外国人留学生に支援を行う「米山奨学制度」を構想しました。これが現在の「ロータリー米山記念奨学会」となっています。先日下見に総持寺の米山家のお墓を見に行った時は、雑草に覆われて木が伸び放題で枝が墓石の上に覆い



かぶさっている状態で、一応草刈り等の準備はしていたのですがあいにく当日朝からの雨で出来ず、墓参の当日に草刈りをする事になりましたが、お墓に行ってみると草はある程度刈られている状態でした。ただ枝は伸びたままでしたので、仕事柄野崎会員、小山会員に枝切りをお願いし、また池亀会員始め数人の会員が残っている雑草を刈ってくださりすっきりきれいになったお墓で、赤間会員の読経で皆様お線香を手向け無事墓参を行うことが出来ました。

墓参に先駆け、大本山総持寺の寺院内を案内いただき、最初に8間廊下と呼ばれる長さ162メートルある廊下でお話を聞き、建物が東西に分かれているのは火災による重要物の喪失を防ぐため、また日本海側に永平寺、太平洋側に総持寺を配置しているのもそのようなことからだと、そしてこの鶴見に総持寺を建立したのは、東京と横浜の中間点と言う観点からだそうです。その後広大な寺院内を約1時間にわたり案内して頂き、幸運にも前日から通行できるようになった改築したばかりの建物も見学させていただきました。

